



お花の栽培シリーズ「ポーチュラカ」






2008年4月	卯月(うづき)・卯花月(うのはなづき)・鳥月(とりづき)・花残月(はなのこりづき)・夏初月(なつはつき)・余月(よげつ)	●春まき草花の種子まき時期
心待ちにしていた季節の到来です。庭は、活気づき、華やいだ雰囲気があふれます。病害虫の発生が、盛んになる時期でもあるので、防除の手入れは 早めにしましょう。		
庭木の作業	<ul style="list-style-type: none"> ・ウメやサクラにウメムシが発生する前に、害虫駆除を定期的に行いましょう。 ・落葉樹を「とり木」でふやすなら、この時期に行いましょう。 	
草花の作業	<ul style="list-style-type: none"> ・春まきの草花をまき終える。 ・病害虫の発生がさかんになるので、早めの予防をしましょう。 	

今月の誕生花	チューリップ・デージー・ワスレナグサ	
今月の花	アンズ 花言葉 / 疑い、乙女のはにかみ	
	<p>花言葉の『乙女のはにかみ』は、サクラより早い早春にはにかむように咲くためといわれています。</p> <p>昔、中国の廬山に 董奉(とうほう)という医師がいました。董奉は お礼は受け取らず、病気が治ると、重病者たちには アンズの木5株、軽病者には 1株を植えさせていました。いつの間にか、10万株以上のアンズの林ができ、アンズは成長すると、よく実をつけて、その種は杏仁(きょうにん)というよい漢方薬になったといわれています。また、「旧訳聖書」によく出てくるリンゴについて、実はアンズであるという説もあります。</p> <p>聖書学者によれば リンゴはシリアの原産ではなく、聖書の舞台では イチジク以外では アンズがもっとも普通に 見られるということです。</p> <p>干しアンズも、そのあたりで作られているので、「旧訳聖書」でリンゴとなっているのは、おそらくアンズのことであろうと 推測されるわけです。</p>	
		<p>原産地は中国北部。バラ科サクラ属の落葉小高木。丈は5mくらい。開花時期は3~4月。最盛期は4月。葉の形状は、互生し長柄、長さ8cm内外。花持ちは3日位で、花色は白、淡紅色など。英名アプリコット (Prunus armeniaca)。別名唐桃(からもも)、杏(漢字表記)。</p> <p>サクラによく似たこの花は、サクラより 一足早く咲き、早春の花です。むしろ 花より初夏の甘酸っぱい果実の方が 有名です。生食もおいしいですが、ジャムや果実酒にしても よいものです。</p>

お花の栽培シリーズ

今月の花

ポーチュラカ

日当たり  日なた	水やり  乾燥きみ	気温  15~25℃	草丈  10~15cm	花色 
--	--	---	--	---

ポーチュラカは、スベリヒユとマツバボタン之交雑によって生まれた花で、ハナスベリヒユとも呼ばれ、夏花壇を彩る花として人気が高まっています。茎が垂れ下がるほどよく伸びるので、ハンギングバスケットとしても楽しむことができます。

ポーチュラカは種がでにくいので、株を室内の暖かい場所で冬越しさせます。露地植えの場合は秋になって花が咲かなくなったら、枝を短く切り詰めて、鉢に植え替えておきます。5℃以上が保たれる場所で、乾燥気味に管理します。

大変乾燥に強く、また肥料がないやせた土地でもよく育ちます。しかし、日が当たらないと花がまったく咲きません。かならず日当たりのよい場所で育てましょう。湿度には弱く株が蒸れて傷んでしまうので、用土は水はけのよいものを用います。



●種まきからの育て方

●種まき

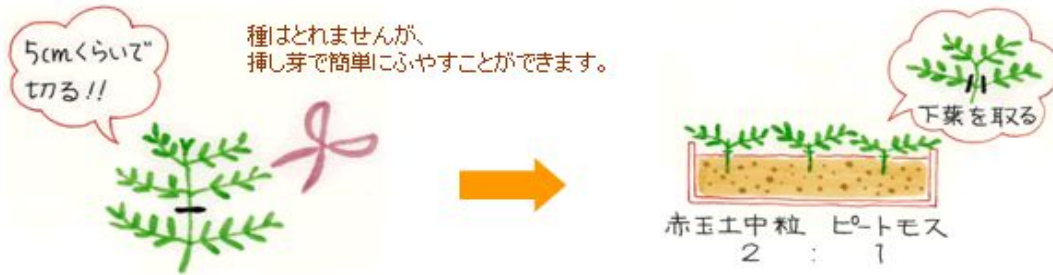
●仮植え



●植えつけのやり方



●挿し芽での増やし方



●年間スケジュール

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
状況						花期						
置き場所	屋内の日当たりがよい場所			屋外の日当たりのよい場所					屋内の日当たりがよい場所			
水やり	表土が乾いて1~2日たったら与える		表土が乾いたら与える(1日に1回)						表土が乾いて1~2日たったら与える			
肥料						元肥		月に1回、濃い液肥を与える				
病虫害	アブラムシが発生した場合はマラソン乳剤などを散布する											
作業	種まき		植えつけ			挿し芽			鉢上げ 露地栽培のものは、根を短く切り詰めて、鉢に植え替える			